

< 担い手への農地集積等を実施している事例 >

たい肥散布推進の取組

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛知県北設楽郡設楽町 東部			
協定面積 52ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稻 とうもろこし			
交付金額 450万円	個人配分			83%
	共同取組活動 (17%)	水路・農道等の管理		5%
		たい肥散布補助		3%
		センチピートグラス種子補助		1%
		研修・交流費		4%
役員手当		4%		
協定参加者	農業者 65人			

2. 取組に至る経緯

本集落では高齢化により農作業が出来なくなりつつあり、集落内の排水路は各所に傷みが見られ、補修では足りない状況にあった。このため交付金を利用して担い手の確保と農地の適正な保全を図ることとした。

3. 取組の内容

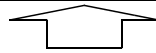
愛知県農業試験場で育種された米の新たな品種である中部111号を、たい肥散布を実施した協定内のほ場2.4haで試験的に栽培を開始している（農家6名の参加）。これは、中部111号を当地域のこだわりの米として有利に販売することが可能性か確認するために実施しているものであり、平成20年度には、中部111号普及グループ「はるか」を結成し、玄米タンパク値の検査、食味会、販売検討会の実施など販売に向けた努力を行うとともに、環境に配慮した農法を実施し、県の認定するエコファーマー取得を行った。

また、その他の取り組みとして、同年に協定内で話し合われてきた排水路の改修を一部で開始したほか、町が主催する体験農園の開催請け負いによる消費者との交流や協定内で収穫した米やトマトなどの農産物をアンテナショップ的に販売するなどを行っている。



[集落の将来像]

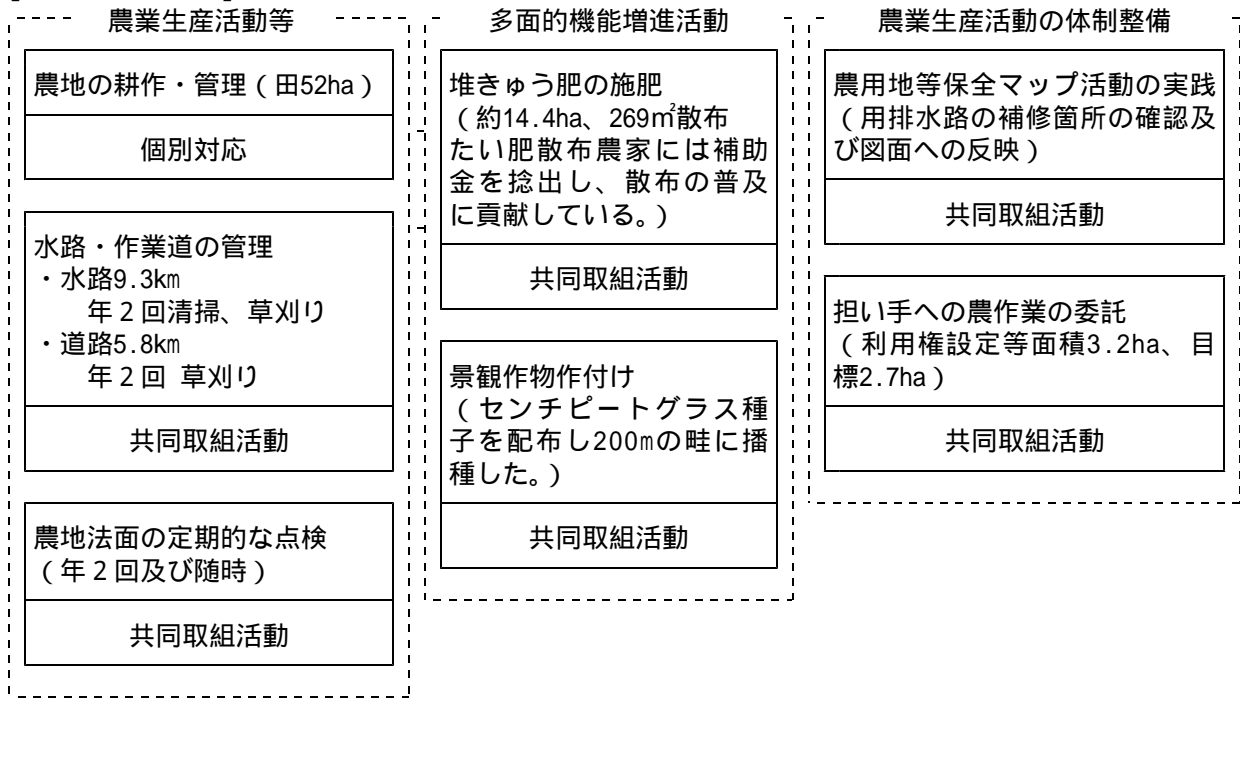
1 ha以上の畜産たい肥利用ほ場の確保、農地環境整備事業による排水路の整備
1名以上の担い手の確保



[将来像を実現するための活動目標]

担い手への農地集積 2.5ha
畜産堆肥の利用 1ha

[活 動 内 容]



集落外との連携

交流・教育連携事業として、廃校となった旧名倉中学校にある農地を利用して農業体験を実施した。都会から交流参加者を募集し、名倉小学校の3、4年生と地元の老人達でサツマイモの植え付け、収穫、サツマイモの調理を実施し、参加者間での交流がなされた。参加者の子供たちはミミズ、蛙、モグラ、ネズミと出会い大騒ぎであった。

4. 取組による変化と今後の課題等

前期対策から実施しているセンチピードグラスの植栽にも継続的に取り組んでいる。景観形成と法面維持管理作業の省力化に対して有効性があるが、すでに雑草が繁茂した法面では育苗期の管理が困難で播種の効果が少ないため、今後は用排水路の改修時など整備を行う時期を見計らって、行政の協力を得て植栽面積を増加させたい。

[平成20年度までの主な成果]

たい肥散布面積の実績

18年度3.8ha

19年度8.3ha、152m³(協定内の有志により名倉たい肥利用組合を設立)

20年度14.4ha、296m³(近隣の南区、大平区に希望を募り、協定外でも1.6ha、31m³のたい肥を散布)